

<2019年度 ハローオリピズム事業>
オリンピック教室

実施報告書

神奈川県 二宮町立二宮西中学校

**Olympic
Movement**



公益財団法人日本オリンピック委員会

「オリンピック教室」の実施にあたって

現行の学習指導要領から、中学校「保健体育 体育分野」及び高等学校「科目 体育」における「体育理論」の領域で、文化としてのスポーツやオリンピック・ムーブメントの意義を学ぶことが示されました。中学校3年生では、「オリンピックや他の国際的なスポーツ大会などは、国際親善や世界平和に大きな役割を果たしている」現状を通して、オリンピックの意義を学習することになっています。そこで、JOCでは、中学校3年生の体育理論の学習に先がけ、その内容を事前に啓発する目的で中学校2年生を対象に、平成23年度から「ハローオリンピズム事業」の一つとして、授業形式で行う「オリンピック教室」を実施してきました。

近代オリンピックの創始者ピエール・ド・クーベルタンは、人間本来の資質を高めるために、スポーツと文化と教育の側面を持つオリンピックの価値を広めることが相応しいと考え、オリンピック・ムーブメントを推進してきました。JOCもこの価値を若い世代に語り継ぐことは、極めて重要で大切な活動と考えております。日本代表としてオリンピックに出場した選手（オリンピック）は、その栄誉を自覚し、競技面だけでなく社会生活の上でも、模範となる行動が求められますが、オリンピックがその価値を直接生徒に伝えることで、日頃の授業では味わうことの出来ない感動が生まれることが期待されます。

「オリンピック教室」の授業では、教師役のオリンピックが、オリンピック大会出場に至るまで、あるいは、実際にオリンピック大会に出場して得た貴重な経験等を通して、「エクセレンス」、「フレンドシップ」、「リスペクト」、「努力から得られる喜び」、「フェアプレー」、「他者への敬意」といったオリンピックの価値（バリュー）等を伝えます。同時に、この価値がオリンピックに出場した選手だけのものではなく、多くの人々が共有し日常生活にも活かすことのできるものであること、さらに、こうした考え方があるからこそオリンピックに価値があることを生徒自身が学ぶこともねらいとしております。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。「オリンピック教室」でのふれあいの中での学びが、教科の枠を越え、これからの社会や人生に活かせる資質や能力を育む一助になることを期待しております。また、この授業を通して、生徒の皆さんが、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフの実現につながることも願っています。

令和元年5月

公益財団法人 日本オリンピック委員会

- 実施目的** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）が教師役となり、オリンピック自身の様々な経験を通して「オリンピズム」や「オリンピックの価値」等を伝えると同時に、この価値はオリンピックだけのものではなく、多くの人々が共有し、日常生活にも活かすことの出来るものであることを学習してもらう
- 名 称** : JOCオリンピック教室
- 主 催** : 公益財団法人 日本オリンピック委員会
- 後 援** : スポーツ庁
- 協 力** : 公益財団法人JKA、開催地自治体及び同教育委員会
- 対 象** : 中学2年生
- 講 師** : オリンピアン（オリンピック出場経験アスリート）
※派遣オリンピックはJOC側にて選定
- 期 間** : 2019年4月～2020年3月 ※原則、平日開催
- 実施校数** : 80校程度
- 実施方法** : クラス単位を基本とし、2コマで1セットの授業

1時限目
運動の時間 (50分)



2時限目
座学の時間 (50分)



※学校の通常の授業時間をベースに実施
※運動の時間と座学の時間の間に10分の休憩時間があります

1時限目

運動の時間

オリンピックの専門競技の技術指導（＝スポーツ教室）ではなく、
運動が苦手な生徒も参加できるように工夫されたもの

挨拶（5分）

準備体操（10分）

主運動（30分）

まとめ（5分）



自己紹介
今日の学習内容の確認



準備体操



主運動
（作戦タイム等を設け、
生徒が考える機会を作る）



運動の授業のまとめ

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

2時限目

国際オリンピック委員会（IOC）が推進する「オリンピックの価値」等を、
オリンピックがオリンピック競技大会出場に至るまで、あるいは実際に
オリンピック競技大会に出場した経験等を通して、分かり易く伝えると
同時に、生徒自身が自分ごととして捉え、今後に活かせるような学習内容

座学の時間

挨拶・自己紹介（10分）

オリンピックの価値を伝える（10分）

グループワーク（20分）

まとめ（10分）



学習内容の確認



写真・映像等を使用
した自己紹介



オリンピック自身の経験に
基づく「オリンピックの価値」等
を伝える



グループ（個人）ワークで
話し合った内容を発表



全体のまとめ/記念撮影

※時間は目安です
※内容はオリンピックによって多少変動する場合がございます

実施内容

■期 日 : 2019年7月3日 (水)

■ク ラ ス : 2年3組 (34名)

■オリンピアン : 伊藤 俊介 先生 (水泳/競泳) 【出場オリンピック/アトランタ大会】

■授業のながれ : 運動の時間 (1時限)

1. 自己紹介～授業の目的確認



2. 準備体操



- ・自己紹介の後、オリンピックバリューについて「エクセレンス=努力する、頑張る」「フレンドシップ=友情、助け合う、協力し合う」「リスペクト=尊敬する、称え合う」と説明。オリンピックバリューを意識しながら取り組むよう伝え、準備体操に移る。
- ・ストレッチ、タッチ鬼を実施。

3. 主運動



- ・8の字跳び (90秒間×3回) を2班毎3チームの対抗戦で実施。
- ・途中で引っ掛かたら1から数え直す。制限時間内に連続して最も多く跳べた回数を競う。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に意識して取り組むように伝えたことは、オリンピックバリューに繋がっている。
- ・座学の時間は、伊藤先生の経験を通してオリンピックバリューについて学んでいくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（2時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・クーベルタンについて説明し、オリンピックの賞状やアジア大会でのメダルを披露。
- ・自身の経験を通して感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝努力、頑張る、卓越」、「フレンドシップ＝友情、協力」、「リスペクト＝敬意/尊重」と説明。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：合唱コンクールに向けて何をすれば(準備など)上手いかわ、3つのオリンピックバリューに当てはめて考え書き出してみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
- 「集中して取り組む」「笑顔で楽しむ」「どのクラスよりもたくさん練習する」(エクセレンス)
 - 「声を掛け合う」「お互いを励まし合う」「皆で協力する」(フレンドシップ)
 - 「上手な人の真似をする」「一人ひとりが意見をもち尊重する」「自信を持つ」(リスペクト)

4. まとめ



- ・グループワークで話し合ったことを忘れずに、合唱コンクールに向けてクラス一丸となり楽しく努力してほしい。
- ・オリンピックバリューはオリンピック選手のものだけではなく、皆の日常生活の中にも見出すことができる。
- ・東京2020大会では、神奈川県にさまざまな国の選手が事前キャンプに訪れる。英語が完璧に話せなくても、「Hello」と挨拶することでフレンドシップを築くことができる。
- ・今後の人生の中でオリンピックバリューを実感する機会をたくさん作ってほしいと伝え、授業終了。

実施内容

■期 日：2019年7月3日（水）

■ク ラ ス：2年1組（34名）、2年2組（34名）

■オリンピアン：高尾 千穂 先生（スキー／フリースタイル）【出場オリンピック／ソチ大会】

■授業のながれ：運動の時間（3時限、5時限）

1. 自己紹介～授業の目的確認



- ・自己紹介の後、運動の時間は「チームで協力する」「ベストを尽くす」「目的意識を持つ」ことを意識するように伝え、準備体操に移る。
- ・ストレッチ、じゃんけん勝ち抜けを実施。

2. 準備体操



3. 主運動



- ・8の字跳び（90秒間×1組：2回、2組：3回）を2班ずつ3チームに分かれて実施。
- ・制限時間内に跳んだ回数を競う。
- ・クラス全員跳び（1組）を実施。

4. まとめ



- ・授業の冒頭に伝えた「協力する」「ベストを尽くす」「目的を持つ」の3つの約束を意識して取り組めたか確認、3つの約束はオリンピックバリューにつながっている。
- ・座学の時間は高尾先生が経験したことを交えながら、オリンピックバリューについて詳しく説明していくと予告し、授業終了。

■ 授業のながれ：座学の時間（4時限、6時限）

1. 自己紹介と授業の目的を確認



- ・写真や映像を見せながら、競技や先生がオリンピックを目指すまでの過程を説明。
- ・自身の経験を通して感じたオリンピックバリューについて、「エクセレンス＝卓越、チャレンジする、ベストを尽くす」、「フレンドシップ＝友情、チームワーク」「リスペクト＝敬意/尊重、自然に対する畏れ、他の選手に対する尊敬」と紹介。

2. オリンピックの価値を伝える



3. グループワーク



- 発問：普段の生活の中で感じていること(取り組んでいること、努力、頑張っていること等)を3つのオリンピックバリューに当てはめて考えてみよう。
- 発表：各班の代表者1名が前に出て発表。(抜粋、順不同)
- 「部活で先輩を超える気持ちで頑張る」「試合で負けても欠点を見つめ直し夏の大会で勝つ」(エクセレンス)
 - 「アドバイスをしたり、もらったりする」「仲間と喜びを分かち合う」「仲間を大切に」(フレンドシップ)
 - 「競い合うライバルを尊敬する」「毎日ちゃんと挨拶する」「自分を支えてくれた人への感謝」(リスペクト)

4. まとめ



- ・オリンピックバリューは皆の日常生活の中にも見出せるが、意識していないと見逃してしまうこともある。オリンピックバリューに当てはめて考えることで、普段行っていることや考えていることが明確になる。
- ・普段から目標を持つことを意識してほしいと伝え、授業終了。